

ぶろしよつぷつうしん

数字を知る

先月まで曲がりが必要なのかというお話をしてきましたが、ボウリングマガジン十月号に

「ボールリアクションガイド2016」として

ボールの紹介がされています。この中では最新の

ボウリング事情や今秋のトレンドなどが紹介されています。詳細はボウリングマガジンを

読んでいただきたいと思います。ボールのカタログなどを見ていると、いろいろな数字が書

かれているのに気が付かれるかと思えます。でも数字だけ見てもなかなかわからないですよ

ね？今回は簡単にではありませんが、「RG」「 Δ 」(デルタ)「RG」についてご紹介したいと思います。

まずRGについてです。RGは回転半径と訳される物理の概念になります。この回転半径の大きさが慣性モーメントの大きさを表現して

ます。慣性モーメント????? 慣性モーメント????? 慣性モーメント?????

どんどん難しいことが出てきますが難しく考えないでください。この慣性モーメントは

転がりにくさを表した指標になります。ですので、簡単に言ってしまうと、この数値が

高いほどボールは転がりにくく、低いほどボールは転がりやすいと判断することができます。

例えば、RGはカタログなどには必ず表記がされています。なお、RGの規定は2.460以

上2.800以内と規定されています。数値が小さく転がりやすいという事は手前から曲

がりやすくなり、一方で数値が大きいボールは転がりにくいことから走るボールと判断する

ことができます。

例えば、今月の会報で紹介をしているボールで見ると、ストリートファイトは「2.62

0」、フェイズIIは「2.480」と表記されています。フェイズIIは数値が小さいので曲が

りやすくストリートファイトは数値が大きいので走るとみることができます。

続けて「 Δ 」(デルタ)「RG」についてです。 Δ RGは回転半径差と訳されます。フレアポテン

シャルと呼ばれることもあります。この考え方と説明すると非常に難しいので、こ

こでは概略だけを説明をさせていただきます。この数値は大きくなるほど、摩擦が増しやす

くなります。そのため、曲がりが出やすくなり、一方で数値の小さいボールは緩やかな曲がり

となります。

かなり難しい話になってしまいましたね。カタログには実はいろいろはボールのヒントが隠

されています。なんでこんな数字が書かれているのかはおわかりいただけたかなと思っ

ています。もちろんすべてをすぐに理解するのはなかなか難しいことですが、少しでも知っ

ておくとボール選びなどで参考になることは間違いなくと思います。

でももちろん数値だけでは決まるわけではありません。カバーストックや表面加工な

ど、いろいろな要素を重ねてボールは完成しているという事は忘れられないようにしてく

〈ドリラーのひとりごと 第21話〉

〜 J L B C 〜

まだまだ続く団体紹介。

今回は「J L B C」について紹介をしていきたいと思

います。J L B Cは「ジャパンレディースボウリングク

ラブ」が正式名称となりま

す。名前のとおりとはなり

ますが、プロアマを問わず

女性ボウラーの集いとして

一九七六年に発足をしまし

た。

ボウリングを通じて、レディースの輪を大きく広げる活動を全国的に展開しています。



主な活動としては、JPBAの公認トーナメントとなる「宮崎プロアマオープン」や「J L B C プリンスカップ」などの主催、「エバラカップ」などのサーキット活動などを行っています。女性であればなたでも入会できますので、詳細をホームページなどでご確認ください。

〈筆者〉



佐取賢プロ(44期) JPBA/PBAプロウレ JPBA B級インストラクター JBC公認ドリラー